

第1章 横須賀再興プランが
目指すまちの姿

1 横須賀再興プランが目指すまちの姿

横須賀に関わる全ての人々が未来への希望を持ち、お互いの手を取り、支え合う「誰も一人にさせないまち」の実現を目指し、『横須賀再興プラン2018-2021』を策定し、様々な取り組みを行ってきました。

この取り組みを進めるにあたっては、横須賀ならではの個性や魅力を最大限に生かすため、「海洋都市」、「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市」、「個性ある地域コミュニティのある都市」の3つのグランドデザインを描きました。

横須賀の海は、マリンスポーツなどに適した環境、東京湾と相模湾それぞれの個性ある景観、近代日本の礎となった歴史を持ち、国内外の物流拠点となる港や世界最先端の研究開発機関などがある、他都市でも類のない特別な存在です。

この「海」という可能性に満ちた資源を、最大限に活用する「**海洋都市**」。

音楽やスポーツ、エンターテインメントには、誰の心にも響く普遍的な魅力と、人々を元気にして、にぎわいを生み出す力を持っています。

自然、歴史、文化など、横須賀の多様な地域資源を融合させて、新たな魅力を創造することで、人や投資を呼び込み、市民が夢や希望を持つことができる「**音楽・スポーツ・エンターテインメント都市**」。

人と人とのつながりが強い横須賀の強みを生かし、子どもから高齢者まで様々な世代が交流できるやさしいまち、また、谷戸や高台という地形的な特徴を個性と捉え、まちづくりに生かす、「**個性ある地域コミュニティのある都市**」。

この3つのグランドデザインのもと、横須賀の発展に向けて様々な取り組みを進めてきたことで、北九州を結ぶ高速フェリーの就航や、ルートミュージアムの本格始動など、可能性に満ちた、新しい流れが生まれてきました。

この新しい流れを市民に実感していただくとともに、これまでの取り組みを進化させ、地域経済への好循環を創り出し、これまで以上に福祉の充実を図っていきます。

そして、横須賀で暮らす全ての人々がお互いを認め合い、慈しみあい助け合うことのできる「誰も一人にさせないまち」の実現に向け、本プランにより、新たなステージの取り組みを進めてまいります。

2 横須賀再興プラン 2018-2021 の主な実績と今後の方向性

【福祉・コミュニティ関連】

平成30年度（2018年度）

- ・障害者が市で就労経験を積む「障害者ワークステーションよこすか」開始
- ・よこすか就労援助センターにおける障害者の就労支援体制の強化
- ・パーソルサンクス株式会社と農業と福祉の連携推進に関する協定を締結
- ・生活困窮世帯の生徒（中学校3年生）に対する学習支援を拡充
- ・老朽化したうわまち病院の建替え方針を決定（令和7年（2025年）完成予定）
- ・多彩な才能を持つ方と地域の方をつなぐアーティスト村の取り組み開始

令和元年度（2019年度）

- ・身近な地域で相談できる窓口を田浦行政センターに設置
（さらに浦賀・久里浜・西の各行政センターに設置）
- ・横須賀市がん克服条例の制定と、中学校2年生を対象に胃がんリスク検診（ピロリ菌の検査除菌）を開始
- ・学校を拠点とした新たなコミュニティづくり（スクールコミュニティ）の取り組みを汐入地区で開始（さらに馬堀・鷹取地区で開始）
- ・コンビニエンスストアで住民票等の交付を開始

令和2年度（2020年度）

- ・福祉の総合相談窓口「ほっとかん」の設置
- ・「歯及び口腔の健康づくり推進条例」の制定と取り組みの拡充
- ・コンビニエンスストアで市税等の納付受付を開始

令和3年度（2021年度）

- ・地域で中核的な役割を担う「障害者基幹相談支援センター」を設置

<今後の方向性>

高齢者をはじめとした、市民の悩みの解決に向けたサポート体制をさらに強化し、誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境づくりを進めます。
また、希薄になりつつある地域の間人関係をつなぎ、住民同士が助け合うコミュニティづくりを進めていきます。

【子育て・教育関連】



平成30年度（2018年度）

- ・国の制度より拡大した、幼稚園・保育園の段階的無償化の実施
- ・中学3年生まで小児医療費助成を拡大するとともに、所得制限を撤廃
- ・中央こども園の整備方針の決定（令和4年（2022年）開園）

令和元年度（2019年度）

- ・幼稚園・保育園の段階的無償化を、国の制度よりさらに拡大
- ・公立保育園で主食の提供を開始、小学校給食の食器を改善
- ・保育士の処遇改善を、国の制度に上乗せして実施
- ・訪問型病児・病後児保育の利用に対する助成制度を開始
- ・放課後児童クラブがない逸見地区に公設でクラブ設置
- ・不妊・不育専門相談センターを設置

令和2年度（2020年度）

- ・ひとり親家庭に対する養育費確保支援事業を開始
- ・小中学校の児童生徒に1人1台のタブレット端末（パソコン）を整備
- ・県内で初めてLINEによる妊娠・不妊等の相談事業を開始

令和3年度（2021年度）

- ・学校給食センターが完成、中学校完全給食を開始
- ・学力向上の取り組みにより、複数の教科で中学生の平均正答率が上昇
（中学生の学力状況）（全国平均を100とする）

学年	教科	2017年度	2021年度	伸び率
中3	国語	97.4	99.1	+1.7%
	数学	96.2	101.4	+5.4%
中2	英語	99.3	105.1	+5.8%

※国語、数学は、（文部科学省）全国学力・学習状況調査による比較

※英語は、民間事業者の学習状況調査による比較（2020年度実施）

<今後の方向性>

女性活躍の推進や経済的負担などから、共働き世帯が増加傾向にある中で、子育てしながら働き続けられる環境整備をさらに進めていくとともに、経済的負担のさらなる軽減を図ります。

また、これまでの学力向上の取り組みや、中学校完全給食の実施、GIGAスクール構想による1人1台端末の整備などにより充実させてきた環境基盤を積極的に活用し、民間企業とも連携して、教育施策の一層の充実を図ります。

【地域経済・まちづくり関連】



平成30年度（2018年度）

- ・国への積極的な要望活動により、国道357号の夏島地区延伸工事が開始
- ・中小企業への経営支援に向けて様々な取り組みを実施
 - ・事業承継・M&A費用助成制度の新設
 - ・商工会議所や金融機関等との相談窓口ネットワーク構築と事例集発行
 - ・外国人材の導入可能性に向けた調査検討
- ・YRPに新たな研究施設（ヤマシンフィルタ株式会社）の進出が決定
- ・株式会社NTTドコモ、京浜急行電鉄株式会社と連携協定を締結し、スマートモビリティ等を活用したまちづくりを推進

令和元年度（2019年度）

- ・ネパール連邦民主共和国バラトプル市と、外国人材導入検討のための相互支援に関する覚書を締結

令和2年度（2020年度）

- ・西海岸の開発促進のため、ホテル等が立地可能となるよう用途地域を変更
- ・産業交流プラザにコワーキングスペース「Yokosuka Work Cube」を開設
- ・国と連携して、追浜駅前に公共施設・商業施設を立体的に配置したバス・タクシーの複合ターミナル「地域密着型バスタ」の整備事業を開始
- ・中心市街地である横須賀中央駅周辺地区において、若松町1丁目地区の再開発事業を都市計画決定
- ・拠点市街地である追浜駅周辺地区において、追浜駅前第2街区の再開発事業を都市計画決定（変更）

令和3年度（2021年度）

- ・ポートセールスにより、横須賀港と北九州港を結ぶフェリー航路が開設
- ・新たな企業の立地
 - ・ホテルニューポートヨコスカが、小川町に開業
 - ・株式会社TBMによる廃プラスチックのリサイクルプラントが神明町に立地（予定）
 - ・YRPへの新たな研究施設（株式会社ブイ・テクノロジー）の進出決定
 - ・海辺ニュータウンへの新たな工場（有限会社マーロウ）の進出決定
- ・民間事業者9社（市内3社）との民官連携による「ソレイユの丘」拡張を含むリニューアル工事が開始

<今後の方向性>

市内企業への経営支援を継続するとともに、人材不足や後継者問題への対応や、デジタル化・多様な働き方など、挑戦する事業者への支援に取り組みます。

また、物流拠点としての地位をさらに向上させ、外部からの投資を呼び込み、地域経済への好循環を生み出していきます。

【にぎわい・観光関連】



平成30年度（2018年度）

- ・民間事業者などと協力したヨコスカ街なかミュージックの取り組み開始
- ・ユニバーサルミュージックとの共同プロジェクト「YIMA2018」の開催
- ・猿島を活用した音楽イベント「Tropical Disco in Sarushima」の開催
- ・民間企業と連携した「Pokemon GO SaFari Zone in YOKOSUKA」の開催
- ・ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の初開催
- ・民間と連携した第二海堡上陸ツアーの開始
- ・横須賀市、株式会社横浜DeNAベイスターズ、京浜急行電鉄株式会社との三者連携協定の締結
- ・横浜DeNAベイスターズ「ファンフェスティバル2018」の実施

令和元年度（2019年度）

- ・横浜DeNAベイスターズファーム施設（DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA）開設
- ・横浜F・マリノス練習場の誘致の実現（基本協定の締結）
- ・原動機付自転車F・マリノスデザインナンバープレート交付開始
- ・住友重機械工業株式会社から「浦賀レンガドック周辺部」の寄附が実現
- ・猿島ナイトアートイベント「Sense Island」の開催
- ・民間事業者と連携したアニメ「ワンピース」とのコラボイベントを実施
- ・ポートマーケットリニューアルの方針決定（令和4年（2022年）開業予定）
- ・NTT東日本株式会社や株式会社NTTe-Sportsと、ICTなどを活用した地域活性化に向けた取り組みを開始。eスポーツの取り組みを本格化

令和2年度（2020年度）

- ・よこすか海岸通りにウォールアートが誕生

令和3年度（2021年度）

- ・ルートミュージアムの拠点となる「ティボディエ邸」が完成
- ・千代ヶ崎砲台跡の公開を開始
- ・交通事業者と連携した周遊プロジェクト「MEGURU PROJECT」の実施
- ・「横須賀おみやげアイデアコンテスト」の開催
- ・平和モニュメントの設置とともに「平和中央公園」がリニューアル
- ・民間事業者によるヴェルニー公園内の地中海料理レストラン建設が決定

<今後の方向性>

ティボディエ邸の開館により本格化した「ルートミュージアム」などの地域資源と、「音楽・スポーツ・エンターテイメント」を生かした様々なコンテンツを融合させ、点を線につなげ、線を面として展開することで、さらなる集客を図り、観光消費額の増加を目指します。

また、2つのホームタウンチームとの連携をはじめ、これまで以上にアートや音楽、ダンス、マリンスポーツ、アーバンスポーツなどをまちづくりに生かすことで、新たな魅力を創造し、強く発信していきます。

【環境関連】

令和元年度（2019年度）

- ・新しい横須賀ごみ処理施設（エコミル）が稼働開始
- ・三浦市とごみ処理広域化に関する協議書を締結

令和2年度（2020年度）

- ・「海洋プラスチックごみ^{※1}対策アクション宣言」を表明、賛同事業者と連携した取り組みを開始
- ・2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロ^{※2}を目指し、「横須賀市ゼロカーボンシティ宣言」を表明。

令和3年度（2021年度）

- ・「地球を守れ 横須賀ゼロカーボン推進条例」を制定
- ・海を生かしたブルーカーボン^{※3}の取り組み検討を開始
- ・第32回全国「みどりの愛護のつどい」の開催推進
（新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止）

※1 海洋プラスチックごみとは、ポイ捨てや、川や風で陸から運ばれることにより、海に流入したプラスチックごみのことを言います。

※2 二酸化炭素排出量と、森林などでの二酸化炭素吸収量が等しくなり、差し引きで二酸化炭素排出量が「実質ゼロ」になる状態をゼロカーボン（またはカーボンニュートラル）と言います。日常生活や事業において、二酸化炭素排出量をゼロにすることはできないため、ゼロカーボンを目指して取り組んでいきます。

※3 ブルーカーボンとは、藻類などの生物が吸収する二酸化炭素のことで、その吸収量は陸上の植物に匹敵すると言われています。研究機関や市内企業等と連携して、藻類を増やすことで、二酸化炭素の吸収量を増やしていきます。

<今後の方向性>

豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくため、保全、創出、活用に取り組みます。

また、地球温暖化を防ぐため、横須賀市が主体的に行動することはもちろん、市民・事業者などがこの問題に、自分ごととして行動してもらうための取り組みを進めます。

